

創立六十周年記念事業

野依良治博士の講演 「人類存続のための知の統合」 (2009.5.18)



いとし、そのねばならな

明を創造していか

を尊ぶ文

疑心答が行われ、満場を埋めた方々

は野依博士の熱意に満ち、時にユー

モアを織りませた語り口に魅了され

ていました。

の危機的状況を

克服するため

には、文化

(精神性)

を創造

していか

ねばならな

いとし、その

日本人として3番目にノーベル化学賞を受賞された野依良治博士による講演が学生・教職員約300名の聴衆を集め、岡山市柳町のさん太ホールで行われました。

野依博士は講演の中で現在の世界の有機的状況を克服するための「T字型」の間になつて欲しい」とアドバイスを送られました。その他にも活発な質疑応答が行われ、満場を埋めた方々は野依博士の熱意に満ち、時にユーモアを織りませた語り口に魅了されました。

キッシンジャー博士の講演 「提言!2009 岡山から世界へ ～危機をチャンスにするために」 (2009.4.20)

元アメリカ合衆国国務長官でノーベル平和賞受賞者、ヘンリー・A・キッシンジャー博士の特別講演がOHK開局40周年、岡山市政令市移行、および本学創立60周年記念行事の一環として、創立50周年記念館で行われ、約400名の方々が来場されました。

博士は、世界は今、大きな変革の時期にあり、大西洋地域にあった政治・経済の重心が太平洋地域、そ



のエピソードとして「自分が重要だと思ふことに信念をもって取り組むことで充実した生き方ができる」と語られました。

してアジアに移行している、環太平洋の諸問題にはアジアを含む太平洋に面する国々が協力して枠組みを作り、取り組んでいかなければならない、と指摘されました。また、ピンチをチャンスに変えてきた、博士の若い頃

今後の岡山大学創立六十周年記念事業の予定

創立六十周年を記念し、以下のような全学事業が行われます。

- 6月 18日 勲日本総合研究所会長・寺島実郎氏講演
 - 10月 16日 産業技術総合研究所前理事長・元東京大学総長・吉川弘之氏講演
 - 10月 21日 新制大学一・二期生ホームカミングデー
 - 10月 22日 創立60周年記念式典 アジア・オセアニア国際シンポジウム
 - 10月 29日 北京オリンピック4×100mリレー銅メダリスト・朝原宣治氏講演
- 他にも各学部や研究科で多数の事業が行われます。詳細は岡山大学ホームページをご覧ください。



60th ANNIVERSARY

NEWS

ニュース

モダンダンス部が「岡山芸術文化賞」を受賞 (2009.4.28)



▲「文部科学大臣賞」受賞のダンス「井の蛙」

モダンダンス部が第10回(平成20年度対象)岡山芸術文化賞の「グランプリ」を受賞しました。この賞は岡山県の文化の振興を図るため、各年度における優れた文化活動の業績が認められる個人または団体を顕彰し、一層の研鑽を期待して岡山県より贈られるものです。

昨年8月に神戸で開催された、「全日本高校・大学ダンスフェスティバル」において、参加33大学の頂点となる「文部科学大臣賞」を受賞するなどの功績が認められ、今回の受賞となりました。4月28日に岡山県庁で行われた表彰式に出席した、モダンダンス部の関根顧問と山本部長は、石井県知事より直接表彰状と盾を手渡され、受賞の栄誉を讃えられました。

OPEN

ピオーネ・ユニオン オープン! (2009.4.7)



本学に三つめの福利厚生施設として、ピオーネ・ユニオン（東福利施設）が教育学部の北側にオープンしました。1階にコンビニエンスストア、2階に296席の食事スペースがあります。オープン当日は、マグロの解体ショーなどのイベントがありました。

どなたでもご利用いただけますので、お気軽にお立ち寄りください。

イングリッシュ・カフェ オープン! (2009.5.11)



(外国語教育センター 宇塚万里子)

手軽に英語のコミュニケーションや異文化交流が体験できるイングリッシュ・カフェが、5月11日に津島キャンパスの学生会館内にオープンしました。岡大生なら誰でも、自由に利用できます。

イングリッシュ・カフェでは、①英語担当教員や留学生などと会話を行うフリータイム、②英会話への苦手意識をなくすためのワークシヨップ・セミナー、③少人数の英会話やTOEFLのレッスン（今学期のレッスンはすでに開始）、④英語で参加できる自由参加のイベント（カフェにて順次お知らせ）などの活動を行います。

英字新聞、雑誌、DVDを準備し、留学生や留学経験者などとのコミュニケーションを通じて、身近な国際交流の場としても展開し、学生の皆さんが将来、国際的に活躍するきっかけになることを願っています。

友達を誘ってカフェを積極的にご利用ください。

新しい動き

進む岡大の子育て支援策

次世代育成支援のため、教職員が出産後に復帰し、仕事と育児を両立できる環境の整備に意欲的に取り組んでいます。

たとえば、夏休みなどに子どもの居場所に困る保護者が多いため、長期休暇中の「学童保育」を津島キャンパスで準備中です。また鹿田キャンパスでは、子どもが急に病気になることが仕事を休めない保護者のために、「病児保育」を計画中です。また、保育所「なかよし園」の充実策

も検討されています。

産休・育休は、まわりにしわ寄せが行くから取りづらいたの声もありましたが、教員がこれらで休む場合は、非常勤講師を雇用できることになり、授業負担の心配が減りました。育休期間は延長され、3年まで取得できるようになっています。

育休後は職場への復帰が保証されますし、休業中にも「いちよう並木」が届いて大学の様子が知らされるなど、復職支援も工

夫されてきています。男性教職員も配偶者の出産時には休暇が取れますし、学内では男性教職員の育休取得例もあります。

この支援室は、「次世代育成支援対策検討委員会（H18（20））」の活動を引き継ぎ、教員、事務職員、附属病院看護師などを室員として、学内における次世代育成支援策を考えていく組織です。

(次世代育成支援室 室長 田中共之)

東アジアにおける有用植物 遺伝資源研究拠点の構築

自然科学研究科・バイオサイエンス専攻を中心とする研究グループでは、日本学術振興会のアジア研究教育拠点事業として、中国科学院昆明植物研究所との研究交流、共同研究を加速化することになりました。コーディネーターは加藤謙司教授で、事業期間は5年です。

植物遺伝資源は、農作物の安定生産・飛躍的増産を可能にする

る未知の遺伝子や新規機能性物質の宝庫として、人類の将来にとって不可欠な存在であり、バイオサイエンス研究の貴重な研究基盤です。ヒマラヤ山麓に広がる中国雲南省およびその周辺地域は、重要作物のイネ、ムギ類、ダイズ、ウリ科作物および薬草として利用される野生植物の遺伝的多様性の宝庫です。そこで、昆明植物研究所との共同研究と

して、植物資源を新規に探索するとともに、分子遺伝学、分子生物学などの先端的技術を駆使して遺伝資源の評価・開発研究および基礎研究に取り組みます。

本年10月に、本学において、日中双方の拠点機関および協力機関の研究者が一堂に会して、キックオフシンポジウムを開催する予定です。

(大学院自然科学研究科 加藤謙司)

Gmailを導入

全学生約1万5千人を対象に、2009年4月1日から、Gmailを活用したフリーメールサービスを開始しました。

在学生は入学と同時に、平成19年度以前の卒業生や退職教職員は登録申請を行うことで、そ

れぞれメールアドレスを付与され、本学の関係者は生涯に渡り、大学のメールサービスを利用できるようになりました。

なお、平成19年度以前の卒業生や退職教職員の登録申請については <http://www.okayama-u.ac.jp/user/cc/gmail/> の「登録手続き」にて行うことができます。

詳細についてはこちらをご覧ください。みなさまの積極的なご利用をお待ちしております。